

(2) キッチンまわりの不具合事例(図解)

※ は特に要注意箇所

ウォールキャビネット

- [D04] 説明書通りでない取付のためウォールキャビネットが落下した
- [D05] 指定ビス以外の固定により吊戸棚が落下した
- [D06] アース不良による電気機器の作動不良、漏電した

給水／給湯

- [D07] シャワーホースの接触、擦れによりホースが破れ漏水した
- [D09] シンクトップと水栓固定の緩みにより水漏れた
- [D16] 締め付け不良によるシャワー水栓からの漏水した

ワークトップ

- [D11] 人大ワークトップの接合部のひび割れ、研磨ムラがある
- [D13] 人大ワークトップの裏面補強、建築壁固定不良による反り発生した
- [D15] ステンレス天板、部品表面に一面赤錆が発生した
- [E05] キッチンワークトップの一部にこすれ傷が残る

レンジフード

- [D18] レンジフード本体の前面の引っかき傷が発生した(電気工事、ダクト工事)
- [D19] レンジフードの取付面(躯体)に不燃仕様の材料が使われていない
- [F04] レンジフード取付作業時の切粉(鉄粉)でステンレストップにさび発生
- [F05] レンジフードに触るとガタつく、前後又は左右にやや傾斜
- [F12] 配線接続ミスで風量調節不良
- [F13] 配線接続ミスで動作不良(運転しない)

- [F14] アース線未接続で誤動作
- [F15] 電源容量不足で作動時ブレーカーが落ちる
- [F16] 強ノッチで運転すると、ビビリ音ができる
- [F19] レンジフードを強ノッチで運転しても、排気不足
- [F20] レンジフードを強ノッチで運転すると、ドアが開け難いサッシのスキマから異音(ピュー音)発生
- [F21] ガス漏れが発生しても、警報も、レンジフード連動もせず

ダクト

- [F01] 台所排気口とリビング給気口が接近。匂いの逆流
- [F02] 排気ダクト近くのサッシの一部が変色
- [F03] ベンドキャップの空気抵抗のため吸い込み不良
- [F06] 逆流防止ダンパーがダクトに接触、異音が発生
- [F07] ダクト用ネジがダンパーに接触し吸い込みが悪い
- [F08] ダクト貫通部を伝わり雨水が進入
- [F09] 給気口から虫が侵入
- [F10] ダクト貫通部に木材を使用(不燃材での被覆なし)で、火災発生
- [F11] 逆流防止ダンパー(風圧シャッター)の取付向きが逆で外風が浸入(運転しない状態で開)
- [F17] シャッター開閉不良による風量不足
- [F18] 給気過大となり、コールドドラフト発生

こんろ・グリル

- [E11] こんろとオープンのガス接続不良によるガス漏れ
- [E12] 排気ダクトなしで、オープンを取付け天板が過熱(ガスオープン、電気オープン)
- [E13] こんろ等のグリル排気口内に木屑などのゴミが入っていて運転時に異臭が発生
- [E14] ビルトイン調理機器を操作中にセット位置がずれた

食器洗い乾燥機

- [E01] 食器洗い乾燥機専用の排水配管が準備されていない
- [E03] 食器洗い乾燥機の給湯供給が、給水配管になっている
- [E06] 給水ホースの無理な納まりからホースに割れが入って漏水
- [E07] 食器洗い乾燥機の給水ホース接続不良による漏水
- [E09] 食器洗い乾燥機の排水ホース延長接続による排水不良
- [E10] 固定金具の付け忘れによる本体ガタツキが発生
- [E15] 施主から工務店に、食器洗い乾燥機は水接続を指示されていたが、食器洗い乾燥機接続業者はお湯接続をしてしまう

排水

- [D01] 排水の流れが悪い
- [D02] 排水するとき「ゴボ、ゴボ」音がする
- [D08] 排水トラップねじ部の締め付け不良から水漏れた
- [D10] 排水トラップ、シンク取付フランジ部から水漏れた
- [D14] 排水ホースの排水管差込不良により、排水不良(流れが悪い)が発生した
- [D17] シンク排水の流れが悪い
- [E08] ディスポーザー取付不良による水漏れ、異音発生

ベースキャビネット

- [D03] キッチンの設置面が下がってきた。キッチンカウンタートップが傾いてきた
- [D12] シンク、調理キャビネットの下引き出しが完全に閉じない

- [E04] 100V仕様に200Vが印加された(食器洗い乾燥機、電気調理機器、100V仕様ガス調理機器)

[確認項目表]

(2) キッチンまわり [D] システムキッチン

不具合例は、取付設置関連以外の設計・他工事に関連する不具合例も含まれている。キーワードは事象又は原因を示す。

[D * *] の番号は、不具合事例（図解）の図中の番号と対応している。

なお、 [D * *] のように下線のあるものは、重複記載の不具合を示す。

[計画・設計、取付設置要因] 注) 当項目表は、一般的な事例であり、メーカー、機種、現場状況により異なります。

注) 検査・確認時期の(○)は、必要に応じて実施、あるいは実施するのが望ましい項目を示す。

| 不 備 が あ る 場 合 の 不 具 合 例 | | | 検 査 ・ 確 認 事 項 | | 検 査 ・ 確 認 時 期 | | | | 備 考 |
|-------------------------|--------|---|--|---|---------------|-------|-------|---------|--|
| 要因・時期 | キーワード | 不具合例 | 検 査 ・ 確 認 内 容 | 検 査 ・ 確 認 方 法 ・ 判 定 方 法 | 取 付 時 | | | 完 成 時 | |
| | | | | | 取 付 前 | 取 付 中 | 取 付 後 | 試 運 転 時 | |
| 計画・設計 | 排水不良 | [D01] 排水の流れが悪い [D02] 排水するとき「ゴボ、ゴボ」音がする | ●ジャバラホースの差込状況を確認する ●排水配管の下がり勾配を確認する ●建築設備の排水枘の2重トラップがないか確認する | ●φ65以上の場合1/50以上が必要 | ○ | | ○ | ○ | ●排水管は、排水性能を確保する配管サイズ、勾配等を確認してください。 |
| 取付前準備 | レベル | [D03] キッチンの設置面が下がってきた。キッチンカウンタートップが傾いてきた | ●建築側の床強度（建築耐加重）は十分か | ●床構造と強度の確認 ●特に上げ床構造の支点と床下地 | ○ | | | | ●床の設計強度は、製品荷重に耐えられる構造、材料にしてください。 ●浮き床の工事は、支点間隔と床下地の厚さを確保してください。 |
| 取付設置中 | 落下 | [D04] 説明書通りでない取付のためウォールキャビネットが落下した | ●建築躯体の所定位置の取付棧に正しく固定されているか | ●隠蔽部の下地棧検査 | | ○ | | | ●本体重量と収納量の加重に対して指定材料、サイズを確保してください。 |
| | | [D05] 指定ビス以外の固定により吊戸棚が落下した | ●固定方法はメーカーの標準施工方法に沿っているか確認する | ●目視確認 | | ○ | | | ●指定ビスは、取付強度を確保するため長さ、太さになっています。 |
| | 電気工事 | [D06] アース不良による電気機器の作動不良、漏電した | ●アース接続は確実に行ったか | ●目視確認 | | ○ | ○ | | ●事前の電気工事で必ずアース工事を行ってください。 ●アース不良で作動不良や帯電する場合があります。 |
| | | 漏水 | [D07] シャワーホースの接触、擦れによりホースが破れ漏水した | ●ホースガイドの取付位置は適正か ●シャワー伸縮時に水栓配管部品接触はないか | ●目視、増し締め | | ○ | | ●シャワー水栓取付後、シャワーホースの伸縮による収納状態確認を行ってください。 |
| | | | [D08] 排水トラップねじ部の締め付け不良から水漏れた | ●排水部品の組立後、水漏れ確認は行ったか | ●目視、増し締め | | ○ | ○ | ●設備業者で排水トラップ部品を取り外して、再組立される場合は水漏れの無い事を再度確認してください。 ●使用開始後の排水トラップを再度取付ける場合は、ゴミ噛みに注意してください。 |
| | | | [D09] シンクトップと水栓固定の緩みにより水漏れた | ●水栓固定板は適正か、締め付けは強固か | ●目視、増し締め | | ○ | ○ | |
| | | | [D10] 排水トラップ、シンク取付フランジ部から水漏れた | ●取付時のゴミ噛み、異物混入の無い事を確認したか | ●目視、清掃 | | ○ | ○ | |
| | 段差・ヒビ | [D11] 人大ワークトップの接合部のひび割れ、研磨ムラがある | ●人大接着、固定は確実に行ったか | ●目視、天板固定の確認 | | ○ | | | ●人大接合面の油脂分除去、連結接合を十分に行い、接着剤の硬化時間を十分に確認してから研磨作業に移ってください。 |
| | 接触 | [D12] シンク、調理キャビネットの下の引き出しが完全に閉じない | ●給排水管、電気配線コード、浄水器等の配管、配線が当たっていないか | ●目視 | | ○ | | ○ | ●給水・給湯配管、ガス配管、電気コンセント等、指定範囲（事前、事後工事）に取付ないと、引き出しと接触する場合があります。 |
| | 反り | [D13] 人大ワークトップの裏面補強、建築壁固定不良による反り発生した | ●取付説明書の通り、製品補強及び建築躯体との固定を確認したか | ●目視、強度確認 | | ○ | | | ●壁付対面キッチンの場合、建築壁の取付棧が必要になります。 |
| 取付設置後・完成時 | 排水不良 | [D14] 排水ホースの排水管差込不良により、排水不良（流れが悪い）が発生した | ●排水ジャバラ管が横引き管で塞がれていないか | ●排水縦管の長さ確認 | | ○ | ○ | | ●排水ジャバラホースが排水管曲がりに当たると排水の流れが悪くなり、異物堆積等で排水の流れが悪くなります。 |
| | 錆び | [D15] ステンレス天板、部品表面に一面赤錆が発生した | ●浄化槽等からの腐食性ガスの逆流はないか | ●目視 | | | ○ | | ●合併式浄化槽の場合は、塩素発生薬剤の投入を使用開始直前に依頼してください。（トラップに封水を確保した以降） ●天板全面養生を施していないか確認してください。（腐食性ガスが溜まる恐れがある） |
| 試運転 | 漏水 | [D16] 締め付け不良によるシャワー水栓からの漏水した | ●試運転による接続部の確認を行ったか | ●目視確認 | | | ○ | | ●試運転時に締め付け部から水が漏れていないことを確認してください。 |
| | 漏電 | [D06] アース不良による電気機器の作動不良、漏電した | ●建築側の電気工事はアースが敷設されているか | ●目視確認 | | | ○ | | ●事前の電気工事で必ずアース工事を行ってください。 ●アース不良で機器の作動不良や帯電する場合があります。 |
| | 二重トラップ | [D17] シンク排水の流れが悪い | ●建築側排水管（床下または排水マス）でのトラップが発生（二重トラップ）していないか | ●目視、シンク側封水フリー確認 | ○ | | ○ | | ●建築の専用排水枘の二重トラップに注意してください。 |

[引継ぎ工事の要因]

| | | | | | | | | | |
|--------|-----|--|-------------------------------|-------------------|---|--|---|--|---|
| 業者間連携等 | 傷キズ | [D18] レンジフード本体の前面の引っかき傷が発生した（電気工事、ダクト工事） | ●レンジフード本体の前面養生は十分か | ●目視確認 | ○ | | ○ | | ●建設工事である後工事（電気、ダクト、クロス）業者が作業中に付ける傷が多発（特にベルト、工具ケースで引っ掛ける）しているので注意喚起が必要である。 |
| | 法規制 | [D19] レンジフードの取付面（躯体）に不燃仕様の材料が使われていない | ●本体の接する面（建築側、製品側）が不燃仕様になっているか | ●目視確認（都道府県火災予防条例） | ○ | | ○ | | ●レンジフードが直接接触して取り付けられる場合は、接触部が不燃材でなければならない。（建築の壁、天井等） |

[その他情報] 建設業法等の法律の適用、各種資格の適用

- 排水部品の組立以外の建築排水配管との接続は、有資格者でなければ工事できません。なお、直接配管以外のジャバラホースでも設置自体が管工事に該当すると解釈される場合も同様です。
- 外壁貫通の事前工事（型枠入れ、ダクト、スリーブ入れ等）は、建設工事（建築工事、管工事）に該当するため、建築工事業者側と打ち合わせ事前に施工してもらう。
- 電動昇降吊戸、吊戸照明、電気調理用加熱機器等、コンセント接続以外の配線接続工事は電気工事に該当します。既設のアース端子への接続を除く、接地工事は電気工事士でなければ工事できません。
- 差込接続（コネクタ接続）は電気工事の対象で、より線接続についても、すべて電気工事の対象となり、電気工事士の資格が必要になります。
- ディスパーザーの設置と維持には、各市町村の下水道局等の設置基準、及び維持管理基準に従って対応することが必要です。

[確認項目表]

(2) キッチンまわり

[E] ビルトイン機器

(調理用加熱機器、食器洗い乾燥機、ディスポーザー)

不具合例は、設置関連以外の設計・他工事に関連する不具合例も含まれている。キーワードは事象又は原因を示す。

[E* *] の番号は、不具合事例（図解）の図中の番号と対応している。

なお、 [E* *] のように下線のあるものは、重複記載の不具合を示す。

[計画・設計、設置要因]

注) 当項目表は、一般的な事例であり、メーカー、機種、現場状況により異なります。

注) 検査・確認時期の(○)は、必要に応じて実施、あるいは実施するのが望ましい項目を示す。

| 不 備 が あ る 場 合 の 不 具 合 例 | | | 検 査 ・ 確 認 事 項 | | 検 査 ・ 確 認 時 期 | | | | 備 考 |
|-------------------------|--------|--|--|-------------------------|---------------|-------|-------|---------|---------------------------------|
| 要因・時期 | キーワード | 不具合例 | 検 査 ・ 確 認 内 容 | 検 査 ・ 確 認 方 法 ・ 判 定 方 法 | 設 置 時 | | | 完 成 時 | |
| | | | | | 設 置 前 | 設 置 中 | 設 置 後 | 試 運 転 時 | |
| 計画・設計 | 事前調整不足 | [E01] 食器洗い乾燥機専用の排水配管が準備されていない | ●耐熱仕様の排水配管仕様になっているか | ●事前の配管設備工事の確認が必要 | ○ | ○ | | | 60～80℃の温水が通るので耐熱仕様の配管が必要です |
| | 作動不良 | [E03] 食器洗い乾燥機の給湯供給が、給水配管になっている | ●施主要望に適合した給湯/給水の接続の確認 | ●設計仕様に適合しているかを確認 | ○ | ○ | | ○ | |
| | | [E04] 100V仕様に200Vが印加された(食器洗い乾燥機、電気調理機器、100V仕様ガス調理機器) | ●電源電圧は接続機器の仕様に合致しているか | ●設計仕様に適合しているかを確認 | ○ | ○ | | ○ | |
| 設置前準備 | 傷 | [E05] キッチンワークトップの一部にこすれ傷が残る | ●作業周辺部(キッチン面や床面)の養生は充分か | ●目視、確認 | ○ | ○ | | | |
| 設置中 | 漏水 | [E06] 給水ホースの無理な納まりからホースに割れが入って漏水(食器洗い乾燥機) | ●ホース折れや切り傷が付かないように、接続位置・ホース引き回し方法を確認 | ●目視、確認 | | ○ | | | 設置後、外からは確認が困難なので、十分注意を払って設置すること |
| | | [E07] 食器洗い乾燥機の給水ホース接続不良による漏水 | ●パッキンやフィルターの取付、締め付け力など配管接続は適正か | ●目視、確認 | | ○ | | (○) | 設置後、外からは確認が困難なので、十分注意を払うこと |
| | | [E08] ディスポーザー取付不良による水漏れ、異音発生 | ●ディスポーザーの運転に異常音、振動はないか ●ディスポーザーは適正に設置されているか ●ディスポーザーの排水ホースは適正か | ●目視確認 ●排水縦管の長さ確認 | | ○ | | (○) | |
| | 作動不良 | [E04] 100V仕様に200Vが印加された(食器洗い乾燥機、電気調理機器、100V仕様ガス調理機器) | ●100V、200V機器と電源の電圧仕様が適正になっているかを設置前に確認 | ●回路コンセントの電圧測定、確認 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | [E09] 食器洗い乾燥機の排水ホース延長接続による排水不良 | ●標準設置の範囲内か、正規部品を使用しているかを目視確認 | ●目視、確認 | | ○ | | (○) | 設置後、外からは確認が困難なので、十分注意を払うこと |
| | ガタツキ | [E10] 固定金具の付け忘れによる本体ガタツキが発生(食器洗い乾燥機) | ●機器は正規部品を使い、指定位置で、適正に固定されているか | ●目視、確認 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ガス漏れ | [E11] こんろとオープンของガス接続不良によるガス漏れ | ●ガス接続は確実であるか、ガス漏れはないか | ●目視、確認及びガス漏れ検査 | | ○ | | ○ | ガス漏れ検査はガス開栓後となるので、確実に接続すること |
| | 異常過熱 | [E12] 排気ダクトなしで、オープンを取付け天板が過熱(ガスオープン、電気オープン) | ●オープンの排気部品は正しく付けたか ●オープンの排気が排出口から排気しているか | ●目視、確認 | | ○ | ○ | ○ | 排気不良による一酸化炭素の発生の恐れがあるので十分確認すること |
| | 異臭(火災) | [E13] こんろ等のグリル排気口内に木屑などのゴミが入っていて運転時に異臭が発生 | ●器具内にゴミが入らないように、設置時の養生はされているか | ●目視、確認 | | ○ | ○ | | 火災の恐れも考えられるのでゴミ等は除去すること |
| 設置後・完成時 | ガタツキ | [E14] ビルトイン調理機器を操作中にセット位置がずれた | ●カウンタートップとの固定は十分か ●ビルトインオープンの固定は十分か | ●目視、固定確認 | | ○ | ○ | (○) | |
| 試運転 | | | | | | | | | |

[設置以外の要因]

| | | | | | | | | | |
|--------|------|---|---------------------------------|-----------|---|---|--|---|--|
| 業者間連携等 | 作動不良 | [E15] 施主から工務店に、食器洗い乾燥機は水接続を指示されていたが、食器洗い乾燥機接続業者はお湯接続をした | ●設置方法等に関する申し送りは伝わっているか(特に施主要望等) | ●事前打合せ、確認 | ○ | ○ | | ○ | |
|--------|------|---|---------------------------------|-----------|---|---|--|---|--|

[その他情報] 建設業法等の法律の適用、各種資格の適用

- 電気配線器具を含み収納ユニット（現地組立品）の電源接続工事、及び建築側取り出しの配線部品（コンセント工事）は、電気工事業に該当し、有資格者でなければ工事できません。
 - ガス配管工事、または接続に関わる工事は、「建設業法」に該当しませんが、「ガス配管工事」はガス事業者団体が実施する認可業者以外は工事を行うことができません。
 - ガス機器とガス栓出口とを接続具を用いて接続する工事は、下記の通りです。
 - ①都市ガスの場合：金属可とう管、強化ガスホースを用いて接続する工事、または機器接続ガス栓出口をガス機器に直接接続する工事・・・「ガス機器設置スペシャリストの資格者が行う」、または「ガス可とう管接続工事監督者のもで行う」必要があります。
金属管による接続工事は「ガス事業者」に依頼してください。
 - ②液化石油ガスの場合：金属管、金属フレキシブルホース、液化石油ガス燃焼器接続用低圧ホース、機器接続ガス栓を用いて接続する工事・・・「液化石油ガス設備士が行う」必要があります。
液化石油ガス燃焼器接続用低圧ホースを用いて接続する工事は「ガス機器設置スペシャリスト」でも行えます。
- レンジフード、照明、電気調理用加熱機器等、コンセント利用以外の配線接続工事は電気工事に該当します。既設のアース端子への接続を除く、いわゆる接地工事は電気工事士でなければ施工できません。
 - 食器洗い乾燥機を水道に直結する給水工事は、給水装置工事主任技術者の資格が必要です。
 - ディスポーザーの設置と維持には、各市町村の下水道局等の設置基準、及び維持管理基準に従って対応することが必要です。

[確認項目表]

(2) キッチンまわり [F] レンジフード

不具合例は、施工関連以外の設計・他工事に関連する不具合例も含まれている。キーワードは事象又は原因を示す。
[F**] の番号は、不具合事例（図解）の図中の番号と対応している。
なお、 [F**] のように下線のあるものは、重複記載の不具合を示す。

[計画・設計、施工要因] 注）当項目表は、一般的な事例であり、メーカー、機種、現場状況により異なります。 注）検査・確認時期の（○）は、必要に応じて実施、あるいは実施するのが望ましい項目を示す。

| 不 備 が あ る 場 合 の 不 具 合 例 | | | 検査・確認 事項 | | 検査・確認時期 | | | | 備 考 |
|-------------------------|---------|--|---|--|---------|-----|-----|------|---|
| | | | 検査・確認内容 | 検査・確認方法・判定方法 | 施工時 | | | 完成時 | |
| 要因・時期 | キーワード | 不具合例 | | | 施工前 | 施工中 | 施工後 | 試運転時 | |
| 計画・設計 | 逆流 | [F01] 台所排気口とリビング給気口が接近。匂いの逆流 | ●排気がショートサーキットする恐れはないか（別途に設置する機器間干渉注意。給気と排気のショートサーキット注意） | | ○ | | | ○ | |
| | 変色 | [F02] 排気ダクト近くのサッシの一部が変色 | ●離隔距離の確認 | | ○ | | | | ●機器の腐食や変色にも注意 |
| | 吸込不良 | [F03] ベンドキャップの空気抵抗のため吸い込み不良 | ●換気設計（圧力損失計算）は適正か（給・排気口部材（ベンドキャップ等）抵抗も加味） | | ○ | | | | |
| 施工前準備 | さび | [F04] レンジフード取付作業時の切粉（鉄粉）でステンレストップにさび発生 | ●養生シート等を敷き、シートを仮止めたことを確認 | ●目視 | ○ | | | | ●取付時は、下部にあるキッチン等に養生シートやダンボール等を敷いて切粉による錆びや、工具等による傷付きを防止する |
| 施工中 | ガタつき | [F05] レンジフードに触るとガタつく、前後又は左右にやや傾斜 | ●本体は堅固に固定されているか | ●取付ネジ増締め＋触診 ●目視＋水準器 | | ○ | | | |
| | 異音 | [F06] 逆流防止ダンパーがダクトに接触、異音が発生 | ●本体へのダクト固定は適正か | ●目視＋触診 | | ○ | | | |
| | 吸込不良 | [F07] ダクト用ネジがダンパーに接触し吸い込みが悪い | ●逆流防止ダンパーの作動は正常か | ●目視 | | ○ | | | |
| | 雨水浸入 | [F08] ダクト貫通部を伝わり雨水が進入 | ●ダクト貫通スリーブと壁のシーリングは適正か | ●目視＋水準器 | | ○ | | | |
| | | | ●ダクトは外に下がり勾配になっている事を確認する | ●目視 | | ○ | | | |
| | 虫侵入 | [F09] 給気口から虫が侵入 | ●給気口のウエザーカバーの防虫網は適正か | ●目視 | | ○ | | | |
| | 火災 | [F10] ダクト貫通部に木材を使用（不燃材での被覆なし）で、火災発生 | ●レンジフード、換気ダクトまわりは法規制に従い適切に不燃処理されているか | ●目視（法規制、自治体火災予防条例への適合） | （○） | ○ | | | ●調理室の壁と天井には、準不燃材、レンジフードと換気ダクトまわりは不燃材で可燃物を被覆する必要があります（コンロの場合、加熱部中心から水平に60cm以内は不燃材料仕上げ） |
| 施工後・完成時 | 外風逆流 | [F11] 逆流防止ダンパー（風圧シャッター）の取付向きが逆さで外風が浸入（運転しない状態で開） | ●防火・逆流防止ダンパーの設置は適正か | ●目視（法規制への適合） | | ○ | | | |
| | | | ●逆流防止ダンパーの取付向きは正常か | ●運転しない状態で逆流防止ダンパー（風圧シャッター）が自重で閉じていることを確認 | | ○ | ○ | | |
| | 風量調整不良 | [F12] 配線接続ミスで風量調節不良 | ●運転操作盤のコントロール結線は適正か | ●強・中・弱等ノッチを切りかえて風量確認 | | ○ | ○ | | |
| | 不作為 | [F13] 配線接続ミスで動作不良（運転しない） | ●100Vと200Vの配線間違いはないか ●脱着部の配線接続（コネクタ）は確実に行われているか | ●電圧確認 ●コネクタ部を確認し、スイッチを操作し、運転動作を確認 | | ○ | ○ | | ●製品によってアース線を接続しないと正常に動作しないものがあるので、施工説明書に従い正しく接続してください |
| 試運転 | アース工事不良 | [F14] アース線未接続で誤動作 | ●アース線の接続は確実に行われているか | ●アース線を接続し、スイッチを操作し、運転状況を確認 | | ○ | ○ | | ●製品によってアース線を接続しないと正常に動作しないものがあるので、施工説明書に従い正しく接続してください |
| | ブレーカー作動 | [F15] 電源容量不足で作動時ブレーカーが落ちる | ●最大負荷運転した場合でもブレーカは作動しないか | ●強ノッチ、フィルター部分カバー（目詰まり模擬）運転で確認 | | | ○ | ○ | |
| | 異音 | [F16] 強ノッチで運転すると、ビビリ音がでる | ●運転時に異常音、振動はないか | | | | ○ | ○ | |
| | 風量不足 | [F17] シャッター開閉不良による風量不足 | ●運転時の吸い込み風量は適正か | ●強・中・弱＋フィルター部分カバー（目詰まり模擬）運転で風量測定、異常音チェック | | | ○ | ○ | |
| 業者間連携等 | 排気不良 | [F19] レンジフードを強ノッチで運転しても、排気不足 | ●レンジフードの機種選定は適正か ●給気がとれる十分な開口があるか | | ○ | | | | |
| | 異音・負圧 | [F20] レンジフードを強ノッチで運転すると、ドアが開け難いサッシのスキマから異音（ピュー音）発生 | ●給気は適切に確保されているか ●給気ダクトの変形（ツブレ）はないか | | | ○ | ○ | ○ | ●センター設置タイプのレンジフード（アイランド型キッチン等、ダクトを天井に導き、大きな静圧が必要な場合に適する）や、IH式コンロ専用のレンジフード（給・排気風量が少ない省エネタイプ）も採用する場合には設計者、キッチン、レンジフードメーカー間での事前調整をしてください |
| | 不作為 | [F21] ガス漏れが発生しても、警報も、レンジフード連動もせず | ●ガス漏れ警報器の設置位置は適正か | | ○ | | | | ●ガス漏れセンサーとの連動システムを採用する場合は、業者間で打合せを行ってください（取付位置、結線方法等） |

[施工以外の要因]

| | | | | | | | | | |
|--------|-------|--|---------------------------------------|--|---|---|---|---|---|
| 業者間連携等 | 排気不良 | [F19] レンジフードを強ノッチで運転しても、排気不足 | ●レンジフードの機種選定は適正か ●給気がとれる十分な開口があるか | | ○ | | | | |
| | 異音・負圧 | [F20] レンジフードを強ノッチで運転すると、ドアが開け難いサッシのスキマから異音（ピュー音）発生 | ●給気は適切に確保されているか ●給気ダクトの変形（ツブレ）はないか | | | ○ | ○ | ○ | ●センター設置タイプのレンジフード（アイランド型キッチン等、ダクトを天井に導き、大きな静圧が必要な場合に適する）や、IH式コンロ専用のレンジフード（給・排気風量が少ない省エネタイプ）も採用する場合には設計者、キッチン、レンジフードメーカー間での事前調整をしてください |
| | 不作為 | [F21] ガス漏れが発生しても、警報も、レンジフード連動もせず | ●ガス漏れ警報器の設置位置は適正か | | ○ | | | | ●ガス漏れセンサーとの連動システムを採用する場合は、業者間で打合せを行ってください（取付位置、結線方法等） |

[その他情報] 建設業法等の法律の適用、各種資格の適用

- レンジフードからのダクト接続は管工事、なお、ビルや集合住宅等の場合、給排気機器の設置自体が管工事に該当すると解釈され、有資格者でなければ工事できません。
●外壁貫通事前工事（型枠入れ、スリーブ入れ等）は、建設躯体工事に入るため、建築工事業者側と打ち合わせ事前に施工してもらってください。
- レンジフード、照明、電気調理用加熱機器等、コンセント利用以外の配線接続工事は電気工事に該当します。既設のアース端子への接続を除く、いわゆる接地工事は電気工事士でなければ施工できません。